

<研究会について>

研究会では、①読書会の開催・文献の輪読、②映画作品の視聴、③院生の研究発表、④公開研究会の実施を予定しています。

VRやAIなどのテクノロジーが急速に発達してきた現代において、身体論や空間論の研究分野においてもロボットやアバターに注目が集まっています。そこでは、「自在」に動く身体を肯定する主張がなされています。そこで、再度「自在」に動かない身体＝有限性を持つ身体・空間について改めて考えていきます。本プロジェクトの意義は、多様な専門領域における身体論や空間論を探ることによって、身体の拡張性や有限性を捉えることにあります。

<所属メンバー>

宮内沙也佳 (表象 4回生)
肥満・脂肪表象、物質、過剰性
KIM Kyohyun (表象 5回生)
デジタル主権、インターネット
談拉成 (表象 5回生)
精神分析、ジジエク、死、ゲーム
王裕森 (生命 4回生)
献血、贈与、医学史、医療制度
松元一織 (表象 4回生)
ボードゲーム、将棋、駒落ち、対等性
徳永怜 (表象 2回生)
フーコー、喜劇、演劇論、法
立川宗一郎 (表象 2回生)
ブランショ、変身、物質、言語
朱彦如 (表象 1回生)
廃墟、時間、サイバーパンク
今井友哉 (生命 1回生)
ウイトゲンシュタイン、言語

身体論・空間論研究会

指導教員：千葉雅也

代表者：宮内沙也佳

<講読予定文献>

- 宇野邦一『映像身体論』みすず書房、2008年、296頁。
- ミシェル・フーコー『ユートピア的身体／ヘテロトピア』佐藤嘉幸訳、水声社、2013年、144頁。
- ミハイル・バフチン『ミハイル・バフチン全著作 第7巻』杉里直人訳、水声社、2007年、950頁。
- ダナ・ハラウェイ『猿と女とサイボーグ——自然の再発明』高橋さきの訳、青土社、2017年、562頁。
- アレキサンダー・ギャロウェイ『プロトコル——脱中心化後のコントロールはいかに作動するのか』北野圭介訳、人文書院、2017年、421頁。

<今後の予定>

宇野邦一『映像身体論』（2008）の講読にはじめ、所属メンバーの研究発表をおこないます。2月を目処に開催する公開研究会では、テーマを「デジタル社会における「ゆるい身体」（仮）」とし、橋本一怪先生（早稲田大学 文学学術院 文化構想学部 教授）をコメンテーターとして招聘する予定です。

↓研究会概要

